

ユーザーデバイスをディスプレイや室内周辺機器とワイヤレスに接続

ScreenBeam ConferenceでBring Your Own Meeting (会議室の機材を無線利用)を実現

将来会社のオフィスは、対面参加者とリモート参加者がコラボレーションする場になっていくでしょう。こうしたハイブリッドな職場を実現するには、誰もが利用できる柔軟でシンプルな技術が必要です。

ScreenBeam Conferenceは、室内のカメラやマイクサウンドバーを会議主催者のデバイス*にワイヤレスで接続します。ユーザーは、自分のノートPCと任意のユニファイドコミュニケーション会議サービスを使って会議に参加し、室内の周辺機器をフル活用することができます。ScreenBeam Conferenceでは共有物に一切触れる必要がなく、安全な会議体験が得られます。



ScreenBeam 1100 Plus

にはScreenBeam 1100 Plusソフトウェア(無償)が付属しておりライセンスを別途購入する必要はありません。

デモを依頼する

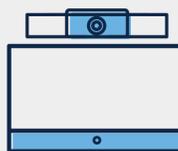
動画を見る

わずか3ステップで完了

ScreenBeam Conferenceは柔軟かつシンプルなBYOMを実現します。つまり、各種デバイスのビデオ会議ツールや非接触型ワイヤレスディスプレイがそのまま利用できます。



STEP 1: ScreenBeam Conferenceアプリを起動しScreenBeam受信機を選択します。



STEP 2: 室内のリソース(カメラ、マイク、スピーカー)と自動的にワイヤレスでペアリングされます。



STEP 3: 任意のWeb会議サービスを起動して会議を開始します。

各種メジャーのプラットフォームに対応(下記以外にも対応)



ScreenBeam Conferenceの主な特長

ScreenBeam Conferenceはあらゆる場所で利用できる柔軟性とあらゆる従業員やゲストが利用できるシンプルさを兼ね備えており会議の対面参加者とリモート参加者がコラボレーションするための効果的なハブとして機能します。

柔軟性

会議室で固定の会議ツールが指定されていても問題なく利用可能

シンプル

室内のAV機器に自動的にワイヤレスで接続

コラボレーション可能

室内ディスプレイに表示されている内容をリモートの参加者も閲覧可能

非接触型

アプリ不要のワイヤレス共有技術により共有のドングルやケーブルに触れる必要がない

低コスト

ライセンス料や専用ハードウェアを必要とせず低コスト化を実現

どのように機能するのでしょうか？

ScreenBeam Conferenceでは、室内の会議参加者は、室内ディスプレイや室内のカメラ、マイク、スピーカーにワイヤレスで接続できます。そしてこれらの室内機器からユーザーのPCに情報がフィードバックされ、ユーザーはあらゆるWeb会議プラットフォームを使用して会議に参加することができます。この間ドングルやケーブルなどに一切触れる必要はありません。

スタンドアップミーティングとハドルスペース



従来型の会議室



ScreenBeam Conferenceを今すぐ試す

ハイブリッドな作業では会議の対面参加者とリモート参加者が安全にコラボレーションできる場所が必要です。ScreenBeam Conferenceは技術的な制約や追加コストを発生させずに従来型のユニファイドコミュニケーション会議室システムを超える柔軟性を提供します。つまりScreenBeam Conferenceは企業のセーフティプロトコルを満たしながら会議の対面参加者とリモート参加者との対話機会を確保し、会議主催者の任意のWeb会議ツールをサポートするとともにあらゆる環境で簡単に使えるソリューションなのです。

**ScreenBeam Conference
を入手する**

(ScreenBeam 1100 Plus受信機が必要です)

screenbeam.com

© 2021 無断転載禁止
ScreenBeamおよびScreenBeamのロゴは、ScreenBeam Inc. の登録商標です。その他のすべての名称は各所有者の所有物です。仕様は予告なしに変更される場合があります。
041921-v4

ScreenBeam®